

## 第 63 回

日本脈管学会総会が

10月27日(木)～29(土)に

パシフィコ横浜ノースにて

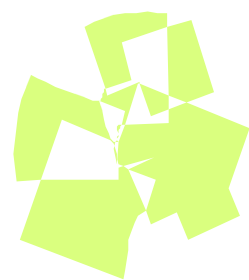
開催されます。

当院からは、

血管外科センター長 今井 崇裕 先生、

看護部 黒瀬 満梨奈 看護師が

学術発表をされますのでご紹介します。



The 63rd Annual Meeting of Japanese College of Angiology

# 第63回 日本脈管学会総会



Share Pearls of Wisdom on Angiology

開催日 2022年 **10月27日**(木)～**29日**(土)

開催場所 **パシフィコ横浜 ノース**

〒220-0012 神奈川県横浜市西区みなとみらい1-1-2

幹事 **林 宏光** 日本医科大学 放射線医学



事務局: 日本医科大学 放射線医学 運営事務局: 株式会社コンベンションアカデミア

事務局長: 村上 隆介

プログラム委員長: 上田 誠夫

〒113-0033 東京都文京区本郷3-35-3 本郷UCビル4F

TEL:03-5805-5201 FAX:03-3808-2115 E-mail: [office@jcaonline.co.jp](mailto:office@jcaonline.co.jp)

# 当院における血管内塞栓術後 1 年の治療成績

## 1-year postoperative results of glue treatment for varicose veins in our hospital

○今井崇裕

Takahiro Imai

西の京病院 血管外科

Department of Vascular Surgery, Nishinokyo Hospital

抄録

【はじめに】2019年、シアノアクリレートによる血管内塞栓術が国内で保険収載された。今回、血管内塞栓術後1年間の成績を報告する。

【対象】2020年1月～2021年3月の下肢静脈瘤手術914件の内、血管内塞栓術を施行した85件130肢(F:63/M:22, 68.0±13.1)を対象とした。

【検討内容】治療成績は以下の3つを検討した。解剖学的検討は超音波で治療標的血管を評価した。臨床学的検討はビジュアルアナログスケール(VAS)を使用した術後疼痛, CEAP分類および静脈臨床重症度スコア(VCSS)を使用した重症度, アバディーン静脈瘤質問票(AVVQ)によるQOLを評価。安全性は術後の有害事象とした。

【結果】解剖学的検討では大伏在静脈(GSV), 小伏在静脈(SSV)とも開存例はなく, 深部静脈合流部より閉塞断端が5cm以上10cm未満に定義された部分開存例はGSVで4例, SSVで5例に確認された。Kaplan-Meier Methodによる累積完全閉塞率はGSV: 95.2%, SSV: 72.2%であった。治療後のVASは0.6±0.8であった。VCSSは3.1±1.7から, 術後30日で0.3±0.3へ改善した(p<0.001)。AVVQは8.0±9.0から, 術後30日で4.8±6.3へ改善した(p=0.064)。有害事象は12例(14.1%)に見られた。内訳は遅発性アレルギー反応: 8例(9.4%, 平均17日), 静脈炎: 2例(2.3%, 平均19日), EGIT: 1例(1.2%, 9日), 血腫からの出血: 1例(1.2%, 19日)であった。

【考察および結語】GSVの完全閉塞例の術前血管径は平均6.8mm, 部分開存例は平均8.3mm, P=0.0023。SSVの完全閉塞例は平均4.1mm, 部分開存例は平均4.2mm, P=0.87であった。有害事象の発生率14.1%と高いが, 2週間以上続く合併症は見られなかった。血管内塞栓術1年間の成績は概ね良好な結果であった。

# パネルディスカッション 多職種で紡ぐ脈管診療

## コロナ渦における CVT 看護師の患者支援の取り組み CVT nurse patient support efforts in the coronavirus pandemic

○黒瀬満梨奈<sup>1</sup> 谷本尚愛<sup>2</sup> 今井崇裕<sup>3</sup>

Marina Kurose<sup>1</sup>, Koji Kawabuchi<sup>1</sup>, Naochika Tanimoto<sup>2</sup>, Takahiro Imai<sup>3</sup>

1. 西の京病院 看護部

2. 西の京病院 臨床工学科

3. 西の京病院 血管外科

1. Nursing Department, Nishinokyo Hospital

2. Department of Clinical Engineering, Nishinokyo Hospital

3. Department of Vascular Surgery, Nishinokyo Hospital

### 抄録

現在、血管診療技師（以下 CVT）は 1,425 名登録されているが、その大半は臨床検査技師であり、看護師は 50 名（3.5%）である。血管疾患に対する診療はチーム医療が不可欠で、CVT 看護師が専門的な知識をどのように業務で活かすことができるか、当院の現状と課題について検討した。

当科は静脈およびリンパ疾患を中心に診療しており、看護師の業務は医師の診察補助と患者様の指導である。看護師は医師とほぼ独立して患者様への指導を行っている。下肢静脈瘤周術期におけるオリエンテーションでは、専用のパンフレットと動画を作成して、患者様の手術に対する不安を取り除く工夫をしている。弾性ストッキングや包帯を使用した指導では、ガイド付き包帯を利用して実際に圧迫圧測定することで、適切な圧迫圧を実感してもらっている。爪白癬症を疑われた場合は、検体を採取して検鏡を依頼している。学んだ専門的な知識を活かすべく、医師の目が行き届かないところへ目を向けている。

また県内の医療機関と合同で院外活動も積極的に行っている。血管疾患の啓発活動として市民公開講座をコメディカルが中心となり企画している。地域への取り組みとして、奈良県の地場産業である靴下作りの復興を目指した「NARA ソックス・プロジェクト」では、靴下会社に臨床現場の患者様の声を伝え、より履きやすくニーズに合った着圧ストッキングを共同で製作している。

看護はコミュニケーションが大切で、すべては患者様とのやり取りから始まる。コロナ渦で遠隔診療が取り入れられ、コミュニケーションの取り方も変化してきており、患者様の声を上手に広げ、専門的な知識を伝えていくことが今後の課題だと考えている。